

海の安全レポート

第七管区海上保安本部
海の安全推進室
TEL093-331-6395(交通部安全対策課)

第190号 令和5年1月号

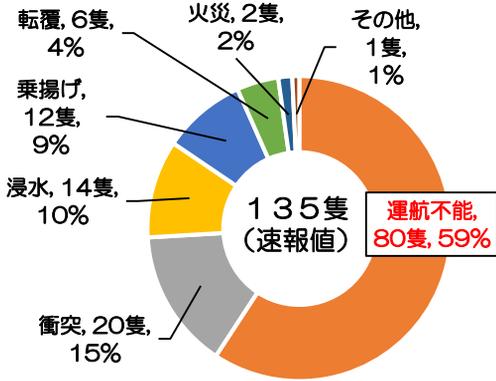


BACKNUMBER (二次元コードは右側をご利用ください。)

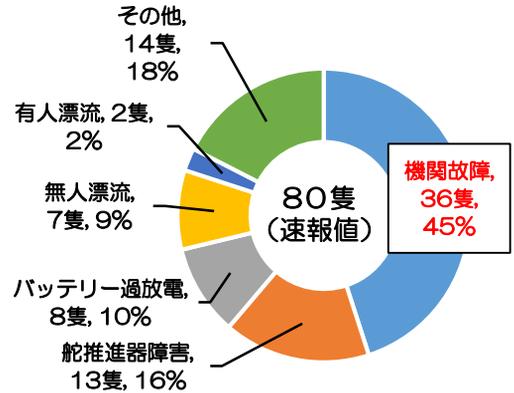
https://www.kaiho.mlit.go.jp/07kanku/gyoumu/kyunan/marine_azen_report/

【船舶海難編】令和4年のプレジャーボート海難発生状況

プレジャーボート海難種類別発生状況 (速報値)



運航不能種類別割合



第七管区内の令和4年で発生した船舶海難のうち、プレジャーボートによる海難が最も多く、135隻と全体(310隻)の43%を占めています。プレジャーボートの海難種類別でみると、運航不能(80隻)が最も多く、全体の59%となっています。この運航不能のうち45%(36隻)が機関故障となっており、日頃から機関を点検していれば防げたであろう故障も発生しています。

機関故障を起こさないために

機関故障船36隻のうち、半数以上は自らの点検、整備でも防げる以下のようなものでした。

◆CHECK1 燃料系のトラブル

燃料フィルターが汚れてくると燃料の通りが悪くなり正常な運転が出来なくなるので定期的に燃料フィルターを交換しましょう

正常 要交換



◆CHECK2 冷却水系のトラブル

海水ポンプインペラはごみ等の吸い込み、経年劣化により破損します。羽根が1枚でも欠けていたら交換しましょう。



◆CHECK3 電気系のトラブル

点火プラグの電極部にカーボンが付着するとエンジンの始動不良や燃費の低下につながるので定期的に清掃を実施し、電極が消耗しているときは早めに交換しましょう。



出港前には必ず機関の点検、整備を行いましょ。また、整備業者でないとは分からないような故障も発生しています。定期的に専門業者に機関の点検を依頼しましょ。

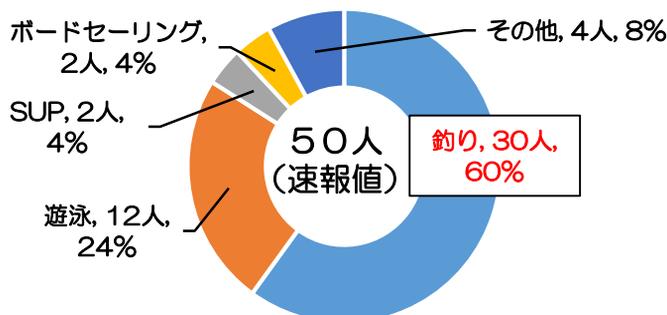
【プレジャーボートに関する安全情報】

詳しくは、右の二次元コードから、「小型船舶のためのマリンセーフティガイド」をご覧下さい

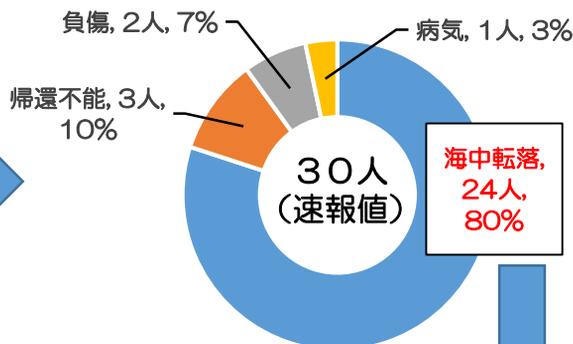


【人身海難編】令和4年のマリンレジャー事故発生状況

マリンレジャーに伴う海浜事故種類別発生状況

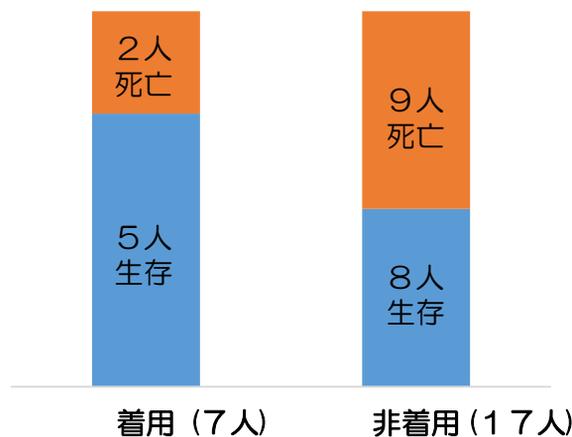


釣り中の事故種類別発生状況



第七管区内の令和4年で発生したマリンレジャーに伴う海浜事故のうち、釣り中の事故が最も多く、30人で令和3年（36人）と比べて6人減少したものの、全体の60%を占めています。釣り中の事故のうち、種類別では海中転落が24人で最も多くを占めており、全体の80%となっています。

釣り中の海中転落における救命胴衣着用割合



釣り中の海中転落発生時、救命胴衣を着用した場合と着用しなかった場合を比べると、着用した場合の方が生存率が高くなっています。

救命胴衣着用の有無が生死を分けた事例

事故者A、Bの両名は磯場で釣りを始めたが約10分後、突然の大波に襲われ事故者Aが海中転落した。このため、事故者Bは直ぐにロープを投げ入れAを救助していたところ、再び大波に襲われ、Bも海中転落し、両名とも海上で漂流状態となった。この時、Aは救命胴衣を着用していたが、Bは救命胴衣を着用しておらず、Aは身に付けていた防水パック入り携帯電話で118番通報するとともに、Bの身体を確保し救助を待っていたが、波に揉まれるうちにBと離れてしまい、そのまま見失った。同日Aは漂流しているところを捜索中の船舶により救助され、一命をとりとめたが、Bは8日後、遺体となって発見された。

釣り中の事故を防止するには、以下の事項を守りましょう。

- ◆釣りに出かける前には、予め釣り場所の天気予報を確認するようにし、釣り中でも風や波が強くなってきた場合は、早めに帰りましょう
- ◆救命胴衣を必ず着用しましょう
- ◆携帯電話などの連絡手段を確保し、事故等があれば118番（海上保安庁）へ通報しましょう
- ◆靴は滑り止め効果の高いスパイクソール等を着用しましょう
- ◆自分の体調を考慮し無理をしないようにしましょう
- ◆なるべく単独行動は避け、複数人で行動するようにしましょう
- ◆釣りをする場所、帰宅時間を家族や釣り仲間などの第三者に予め伝え、定期的な連絡を励行しましょう
- ◆立入禁止区域が設定されている場所には入らないようにしましょう

【釣りに関する安全情報】

詳しくは、右の二次元コードから、「ウォーターセーフティガイド(釣り編)」をご覧ください

